

沖縄県立中部病院将来構想に関する 要望書提出について



常任理事 砂川 博司

沖縄県病院事業局は、老朽化や耐震性、施設の狭さなどを理由に建て替えを検討していた沖縄県立中部病院について、同院将来構想検討委員会にて議論を重ね、現地での建て替えが最適とする同院の将来構想を策定しました。

同病院は、1981年建設の南病棟、2001年建設の本館、2014年建設の新病棟等で構成されており、延べ床面積は計3万5,609平方メートルに及びます。本館は医療機能の拡充などで手狭な他、築41年となる南病棟は耐震基準を満たしておらず、耐震化に向けた検討が行われてきましたが、実施には至っておらず、南病棟の建て替えが喫緊の課題とされています。

今回の将来構想の策定に際し、本会も将来構想検討委員会に委員を派遣し、その経過を見守ってきましたが、病院職員からは南病棟建て替えの緊急性は十分承知しているが、現地建て替え案と移転建て替え案の比較検討が十分でないことに対する懸念が示されております。職員の総意としては、両案のメリット・デメリットを公平に検討し、その結果として現地案が適切と判断されたなら受け入れるという立場とのことでした。

このような意見を踏まえ、本会は沖縄県知事、県病院事業局長、県議会議長へ概ね以下の内容にて要望書を提出いたしました。

県立中部病院は、救急医療や小児・周産期医療、離島・へき地医療の支援など、本県医療の基幹的役割を担う重要な病院であり、臨床研修を通じて医療人材の育成にも大きく貢献してまいりました。しかし、施設の老朽化、特に南病棟の耐震性不足とい

う重大な課題により、患者や職員の安全を確保するため、早急な対応が求められています。

県立中部病院の将来構想検討委員会では現地建て替え案が示されていますが、当会としては地域の中核病院としての機能を維持し、さらに発展させるため、中部病院関係者をはじめ、周辺自治体や地域住民との協力とコンセンサスを十分に確保した上で計画を進めるよう要望しました。

また、中部地区医師会からも別途要望書が提出されており、現地建て替えに理解を示しつつも、工事中の騒音や駐車場の不足など病院職員が指摘した不安も考慮し、移転建て替え案も含めて引き続き検討することを求めています。同会は、地域住民や病院職員の声を反映した、より良い選択肢を模索する必要があるとする立場を表明しています。

病院事業局からは、県立中部病院がこれまでの役割を継続して担えるよう、関係者に対する丁寧な説明を行っていく意向が示されています。

今後は、策定された「県立中部病院将来構想」に基づき、必要な対応が進められる予定ですが、本会としても病院事業局、県立中部病院関係者、周辺自治体、地域住民、そして医師会が一丸となり、県民が安心して医療を受けられる体制の維持・発展に尽力してまいります。

引き続き、会員の皆様におかれましてもご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

沖 医 発 第 6 5 7 号
令和 6 年 8 月 1 4 日

沖 縄 県 知 事
玉 城 康 裕 殿

沖 縄 県 医 師 会
会 長 田 名 毅 殿

県立中部病院将来構想（案）の実現へ向けた要望書

謹啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本県の地域医療提供体制の推進にご尽力を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、今般、県立中部病院の老朽化や施設の狭さ、とりわけ南病棟の耐震強度不足を露端とし、同院将来構想検討委員会が設置され、将来構想（案）が示されました。今回の将来構想（案）で示されているとおり、患者及び職員の安心・安全な環境の確保、地域の中核病院としての機能維持のため、特に南病棟への早急な対応が必要であることは論を俵ちません。

御承知のとおり、県立中部病院は、本県の基幹病院かつ地域の中核病院として、救急医療をはじめとする小児や周産期医療などの政策医療、離島へき地への支援など重要な役割を担っております。また、軽症から重症の患者を全て受け入れる救急医療の提供により、研修医をはじめとした医療人の育成に取り組み、臨床研修制度開始当初から県内外の研修医療機関に対し魅力を発信してきました。

今後の県立中部病院整備事業計画に際しましては、本県の拠点病院としての病院機能のさらなる向上、県内外に誇る研修体制のさらなる発展を視野に入れたビジョンの実現へ向けて、県立中部病院関係者をはじめ、うるま市・沖縄市をはじめとする周辺自治体や地域住民とのコンセンサスの機会を充分に確保していただきますよう要望致します。

本会としましては、これまで同様貴県をはじめ県立中部病院との絶大な信頼関係の下、中部地区ひいては本県の医療提供体制の推進・向上にまい進する所存です。何卒御理解、御協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

謹白

14
受付
6月9日
沖縄県医師会

病 総 第 3 6 5 号
令和 6 年 9 月 3 日

沖縄県医師会会長 田名 毅 殿

沖縄県病院事業局長 本竹 秀光

県立中部病院将来構想（案）の実現へ向けた要望書（令和 6 年 8 月 14 日付け
沖医発第 657 号）について

秋暑の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本県の病院事業の運営等にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、県立中部病院の将来構想につきましては、ご承知のとおり、令和 5 年 7 月に貴会の代表者も含めた県立中部病院将来構想検討委員会及び同委員会を設置し、大所高所からご意見をいただきました。

また、県立中部病院は、本県の基幹病院、地域の中核病院としての役割を担っており、将来構想の検討にあたっては、広く関係者の意見を踏まえることが重要であることから、中部地区の医療機関・市町村消防、県立病院金職員にアンケートを実施したほか、検討委員会において、うるま市長から直接ご意見を伺っております。さらに、うるま市長、うるま市議会、地元自治会、県立中部病院職員に対して説明会を実施してまいりました。

病院事業局としましては、県立中部病院がこれまでの役割を引き続き担えるよう、必要に応じて、関係各所への丁寧な説明に努めてまいりたいと考えております。

貴会におかれましては、今後とも、病院事業局をはじめ県立中部病院との絶大な信頼関係の下、中部地区ひいては本県の医療提供体制の推進・向上にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

中医会発第 73-288 号
令和 6 年 9 月 26 日

沖 縄 県 知 事
玉 城 康 裕 殿

一般社団法人 中部地区医師会
会 長 今 井 千 春

沖縄県立中部病院将来構想に伴う施設建替えについての要望書

拝啓、時下、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より当会の事業にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、県で進められております、県立中部病院将来構想に伴う、病院施設の建替えにつきまして、県病院事業局では、現地建替えでの計画を進めていることと存じます。当会におきましても、県立中部病院が沖縄県の基幹病院かつ中部地域における中核病院として、救急医療をはじめとする様々な医療、また離島へき地への支援、さらには研修医制度による医療人の育成に取り組むなど、沖縄県ならびに中部地域の医療に重要な施設であると認識していることから、老朽化に伴う施設の建替え、とりわけ耐震強度不足を指摘されている、南病棟の早急な対応が必要なことについては、重々理解をしているところであります。

しかしながら、この建替えについては、県立中部病院職員の方々より、工事中の騒音や駐車場不足等の不安が指摘されており、移転による建替えのご意見が出ていることもご承知のことと存じます。加えて、本件が議論された県立中部病院将来構想委員会では、その開催日時の都合により、当会担当理事がほとんど参加できていないことから、中部地区医師会としての考えや意見を十分述べる事ができていないのが現状であると考えております。

このようなことから、当会としては、現在計画されている施設の建替えについて、中部病院職員ならびに、所在地であるうるま市の意見や考え、また地域住民からの意見も考慮し、現地建替えによる計画だけでなく、移転による建替え計画を含め、今後も協議を継続していただくよう要望するとともに、病院職員や地域住民にとって、より良い方法での建替え計画を進めていただくよう、重ねてお願い申し上げます。

謹白